



## JCNA通信 第30号

発行日 2021.10.1  
発行人 山口 郁乃  
編集人 藤井 智恵美  
創立 1957 (S32) 年

### いま、この時、歴史をつなぐ

+主の平和!

会長 山口 郁乃

年初には、COVID19 を征服できる希望を持っていましたが、行動規制やワクチン接種が行われてもなお生活のすべてにおいてその影響が抜きがたくなっていました。

この状況下、防護服やマスクをまとってなお笑顔をはこぶ会員のみなさまはどんなにかお疲れのことと思います。その貴重な体験はいつか必ず披瀝していただきましょう。

ところで、私は、会長という立場でお預かりしている 2 箱の保存資料に目を通しました。(申し訳ありませんが、磯子教会に保存されていた多量の資料は、現本部役員で絞らせていただいたことをご報告の通りです。お城を持たない JCNA として止むを得ないことでした)

その中で初めて知ったのは、JCNA が設立される前に、「カトリック看護婦会」改め「カトリック看護協議会」という存在があったこと。札幌、東京を主体として会員にも指導者にも聖職者の働きが大きく、真剣かつ熱心な団体と見えます。井深八重さまがピオ 12 世教皇様のお声掛け、荒井司教様の支援で日本カトリック看護協会を設立された時、一体化して、その主力となったことと推測しています。

今、JCNA 会員は減少の一途、支部の灯が細くなったところもあります。でも始まりのこの意欲的なお働きを見ると、私たちには C がつくナースの使命があるとわかります。「偉大な人の生涯は常にわれらに思い起こさせる、われらの一生をわれらは気高くなしうることを、そして、逝いてもわれらの後に、時の砂上に、足跡を残しうることを」 ロングフェローの詩にある通りです。

### JCNA 本部 顧問司祭 暮林響様からのメッセージ

#### 「記念」「祈念」「起念？」

「……これを、私の記念として行いなさい」「私たちは今、主イエス・キリストの死と復活の記念を行い……」。ミサのなかの聖変化中、およびその直後の言葉です。

カトリックが一番大切にしているミサの中の、一番大切な聖変化の部分で、イエス様のことを記念するよう呼びかけられているのは、それだけ「記念」という行為に特別な意味や力があるからです。

ここで使われている「記念」は、ギリシア哲学などでは「想起」と翻訳されることが多い言葉です。記念日だからお祝いしよう、ということよりももう少し実存的な単語です。イエスの出来事を思い起こすことで、今、ここであのイエスが私たちに両腕を開き、その心を向け、私たちの祈りを受け止め、ともに喜び苦しんでいることを体験します。さらにミサの前半では、旧約聖書の言葉や新約聖書の言葉を通して、神が歴史の中でどのような場面でどのように働き、どのような言葉をかけてきたかが想起されます。だから、「思い起こして深く心に刻み、強く心に向ける」という意味を込めて「起念」などという表記を思い浮かべてもいいくらいの、強い言葉だと思っています。

こうした起念(仮)、記念の場面で、ただ思い出を刻むだけではなく、私たちはそのイエスの出来事に向き合い、そこにおられるイエス様に向かって祈りを捧げます。ミサの流れにおいても、聖変化の後に続くのは、ミサを捧げる奉仕者のための祈念、教会の指導者、信徒のための祈念、死者の天国における安息のための祈念、様々な必要を感じている人たちのための祈念、聖人たちの取りなしを願う記念です。聖体においてそこに、本当に近くにおられ、私たちに心に向けておられるイエス様に、司祭の言葉に心を合わせ、熱心に祈念するのです。

JCNAの歴史を思い起こすにあたり、そこに恵みが見出されるたびに記念し、さらなる神の働きを祈念しつつ歩み続けることができますように。

### トピックス

JCNA 第4代会長の薄島和子様が、今回の通信の「今、歴史をつなぐ」というテーマに「JCNAの思い出より」として文章をお寄せくださいました。今回の通信で、その冒頭の部分を掲載させていただきます。

#### ◆JCNAの思い出より

2021.9.9 薄島和子

思い出の中からJCNAのことを述べさせていただきます。

##### (1) JCNAと天使グループの活動

カトリック信徒になって「中絶」のない病院で働きたいと希望して、主任司祭の紹介で札幌・天使病院に勤務させていただきました。寄宿舎は当時、四人または六人部屋で、舎監シスターのご厚意で皆カトリック信徒のお部屋でした。早速JCNAに入会しましたが、当時「JCNA北海道支部」と称し、毎週の集会と月一回の例会があり、例会には天使関係以外に勤務する会員も参加されて大人数の集会でした。後日「札幌支部」と名称がかわっていましたが、思い起こせば函館在住の会員が「函館支部」を起したいという声がありました。その後は私が札幌を離れましたので以後の経過はわかりません。この札幌で第三回全国大会(1961)が天使短大を主会場に開催されて、会長井深八重さんとお会いしました。

カト看の集会はお二人のシスターが担当されて、私たちの活動報告を聞かれ、次の活動に必要な助けにご配慮をくださいました。例えば「家庭訪問」に持っていく「食料」を厨房担当のシスターに連絡して活動日に持参できるようにしてくださいました。活動の交通費はグループ費から支給されましたが、集会の間、参加者の膝の上には「献金袋」が回されて、各自が小銭を入れて次の方に回して、集会最後に会計係が開き、その日の献金高の報告がありました。私は小銭しか入れられませんでした。必ず紙幣が入っていました。お聞きすると故斎藤和子先生(当時は天使助産婦学校の教務主任)が「自分は活動に参加できないから」と活動費を応援してくださっていたことを知りました。またお二人のシスターは当時修道名でお呼びしていらっしゃいましたので日本名をしりませんでした。東京・聖母でお会いした時にお一人は「Sr.寺本松野」と言うお名前を知りました。

JCNAの創立はCICIAMS国際カトリック医療従事協議会がローマで開かれた折りに(1950)、ピオ12世教皇様が「カトリックナースの会を作って活動するように」と勧められて日本でも各地にあるカトリック病院が中心になって会員募集をして始まったと聞いています。札幌・天使病院から東京・聖母病院、名古屋は聖霊病院、大阪は、長崎は、というように教区単位で纏まり、多くのシスターナースを中心に当時は千人を超える会員数で、横浜・新井勝三郎司教様のもと、井深八重さんが初代会長として発足しました。

## (2) 全国総会と会長交代

時は経過して在俗会の新米の私が「名古屋支部長」とされ、名古屋・聖霊病院の職員ではありませんので固辞したのですが、副支部長に病棟婦長の助けを頂くことで動きはじめました。全国総会は当時「委員総会」と称され、「本部役員会」と二つの組織で動いていました。忘れもしません。第20回(1978)の大会に出席した折、爆弾が落ちたかとおもいました。井深八重会長の辞任です。井深さんは「赤ん坊でも20年経つと成人します。皆さんでおやりなさい」とおりられ、横浜・新井司教さまも同時でした。JCNAは本部顧問司祭の松村菅和師(横浜教区)に委ねられ、その推薦で第二代会長は藤門政子(ふじかどまさこ)氏が受けてくださいました。藤門氏は愛知県豊明市の現「藤田医科大学看護学部」の教授で、この後、東京・聖母短大で開催される「総会」には、名古屋駅からご一緒に参加することが続きました。この後ご多忙のなに聖霊病院で行われる月例会にも参加されました。しかし藤門氏は当時の「厚生省」からの依頼で「看護学部創設の手伝い」という理由で突然日本を去られ、急遽三代目は「委員総会」で委員長のSr.福田を支えておられた水野しづ様が受けてくださいました。この後、会則が検討されて「本部役員会」と「全国総会」、そして「全国大会」という柱に纏められていきました。

名古屋での全国大会は井深八重さんの会長時代に布池のカテドラルと王山会館で渡辺信代さん(現姓宮本)が支部長のおりにも開催されました。どちらの支部も大会を開催すると先だつものは大会運営費です。名古屋はバザーの他に支部顧問司祭の寺田正親師(名古屋教区)のお計らいで、教区のカトリック墓地の草刈りを担当しました。2018年第59回全国大会(名古屋)オプションで水野しづ様のお墓参りの際ご案内した場所です。各支部いろいろな催しをして資金を準備されていると思います。この時休みを合わせて10人ほどのメンバーで行った草刈りは楽しい思い出です。

ちなみに現在は名古屋市墓地管理事務所が年に数回草刈りをしています。

この後は、日本で1993年に開催されたCICIAMSアジア大会、浜尾司教様やSr.寺本松野も登場いたします。みなさまに直接語り掛けていただくご講演を計画しています。楽しみにお待ちしております。

### ★各支部だより★

今回は支部から、「今、この時、歴史をつなぐ」というテーマでJCNAの歴史、支部の歴史にまつわることがあれば～と募集、それぞれにインタビューや支部の思い出等、また会員の方々のつづやきや思いが集まりました。

体裁は変更しておりますが文面はいただいたそのままを載せました。

日本列島～紅葉とともに南下いたします。(紙面上ランダムになりました。)



#### 横浜支部

#### 平田初枝様

#### 井深さんの思い出

私が出会った井深さんは、毎朝のごミサ、夕の祈りの時には、顔が隠れてしまうほどおおきなオルガンに向かい、真剣な表情で伴奏をしておられました。

病棟が落ち着いた頃を見計らって、一人ひとりの患者さんを訪問し、何気ない日常の会話をしていたのを記憶しています。いろいろな背景を持つ患者さんに寄り添う何気ないしぐさと言葉、その姿勢に、いつも共にいてくださる神、キリストの姿を見たような気が致します。

宮さまが訪問された時や、外国の方を案内されている姿は、大きく堂々と見えました。

小さく丸くなった背中、祈る後姿が印象に残っています。

札幌支部

佐藤朋子様

看護師として私を支えてくれる場所

新卒から JCNA に所属して 25 年になる。途中放蕩娘になっていたが、カトリック看護師であることの意味を自問自答するようになり数年前に出戻った。

色々な看護学校出身の同僚と仕事をすると考え方の違いに愕然とし、悩むことが多い。そんな時、ある教員が「私たちは学生に種を蒔いているのだと思う」と話してくれた。新人指導をしていると色々な花が咲く。育て方を間違えて根腐れしたり、枯れたりしないように世話をする。良い実が成るように自己研鑽を積むことも必要である。

私には種を蒔いてくれた先生、大切に育ててくれた先輩がいた。そして JCNA は豊かに心を育んでくれた。看護師としての心を支えてくれる場所が JCNA だと思う。

これからも JCNA には、だれでも迎え入れ、いつでも戻って来られる場所であってほしいと願う。

東京支部

谷口弘子様

最近の私

JCNA は学生の時から 先輩たちの活動の仲間入り、「日頃の仕事がすべて カトリック看護師として働きなさい」と先輩に教えを請い、今日に至っています。

コロナ禍で生活は自粛「辛いな、苦しいな」と叫んでいます。

本部通信 黙想会の報告を読み返して、感謝の思いになりました。

また教皇様の言葉「高齢者は残り物ではなく、貴重な滋養を与えてくれる」

8/8 日カトリック新聞より

私もその一人、残り物にならない努力、感謝と祈りを忘れないように過ごしている

今日この頃です。

京都支部

鈴木和代様

(支部会員歴最長の鈴木和代様に西川加之子支部長様が電話インタビューされました)

幼児洗礼ではありませんでしたが、結婚前大阪の病院で働いていた時も、結婚して京都に来た時も、職場の近くにはカトリックだけではなく、常に教会が近くにありました。

会員としての一番の思い出は、ウォーカーソンの救護係として、田中さんと参加したり、教会のバザーで血圧測定を行ったりした事です。

## 大阪支部大阪グループ 向井 定子様

やさしいケアは、どこの病院のスタッフにも見えます。  
じゃあ JCNA は？と考えたとき、  
全知全能の神は『善に変えてくださる』という信仰と祈りの中、  
謙遜を学び、隣人愛ができますようにと自分のために祈る。  
その積み重ねが自分を成長させてくださる JCNA と思います。  
そしてその延長は人生につながります。



## 大阪支部姫路グループ 「今、この時、歴史をつなぐ」

### 蟹江 桂子様

コロナ禍で釜ヶ崎ボランティア活動が出来なくなり、2ヶ月に一度、宅配便だよりで私たちの心を届けています。ご協力いただいている方からの物資や、また病院で購入している月刊誌『聖母の騎士』を『ふるさとの家』のお隣の愛徳姉妹会のシスターの所におくっています。そのような事を通してシスターは釜ヶ崎の状況を分かち合ってくださいませ。「おっちゃんたちみなさん元気よ！いつもありがとう！みなさん喜んで聖母の騎士を読み、持ち帰ったりしていますよ。コロナ禍が一日も早く終息することを祈っています。」釜ヶ崎ボランティア活動をはじめて25年余り、JCNAを通して、人を通して、今もこんな形でつながっていることがうれしいです。

### 川口 百合子様

昨年初めからの新型コロナウイルス感染拡大は世界史的な出来事です。  
社会の動き、世界の動向に注意を向けてみましょう。今、神様は私たちに何を語ろうとされているのか耳を傾けたいと思います。

マリア病院は、今年5月から中等症受け入れ15床の専用病棟を設けました。  
市民対象のワクチン接種も姫路市と連携して6月から行なっています。毎日曜日午後から**聖堂**で実施しています。(330人前後の接種者です) 会員も毎回手伝っています。

## 福岡支部 杉本 美幸様

私は受洗5年目、看護師として勤めて20年目になります。信者となって看護の仕事で以前にも増していい仕事だと思えるようになりました。  
どんな時も不安や恐れより、自分にできることがあることに自然と感謝が湧いてきます。信仰により強められていると恵みを感じます。  
できるところからこの感謝の気持ちを返していきたいと思う日々です。

## 広島支部 福島 恵子様 「歴史をつなぐ」

私の JCNA との出会いは、20 歳代看護学生の時でした。山口教会で、看護師の先輩から「カトリックの看護師が集まる大会が名古屋であるので一緒に行ってみませんか」と誘われ一緒に参加しました。その後、金沢大会に個人で参加し、憧れの寺本松野シスターと直接お話をできたこと、今もあの感動を思い出します。

最初は、山口教会に 3 人が集まり、地区の神父様にご指導をお願いし始めました。教会名簿を基に”JCNA 入会案内”を出した結果、少しずつ人数が増えていきました。

途中で指導司祭が不在になったり、退会する人が出てきたり、活動は難しい、無理だと思う時期が何度もありました。そんな時、林尚志神父に出会い、活動力をもらいました。「向き合うといのち流れる」目の前の人にしっかりと向き合うこと、正義の視点で世界に目を向けることなど、自らの実践を通しての指導は、いつも心揺さぶられ突き動かされるものでした。

JCNA 広島支部山口地区として活動を始め、山口県在住のメンバーが 10 名となった時期、本来は広島教区として支部が在るべきだと意見が出ました。そこで広島教区内の教会を通して、看護職に働きかけ JCNA を知ってもらおう・会員募集をしてみようと活動をしました。広島支部と認めて頂いたのもこの時期です。活動の結果、広島市内の看護師さん 1 名が入会され、全国大会を広島で開催することができました。

振り返るとメンバーの移動もあり、天国へ逝かれた方もあります。私自身 60 歳代になり、行動に時間がかかる、記憶力の低下、ネット環境への不適應など問題ばかりですが、メンバーに助けられながら支部長の役割を果たしたいと思っています。自分では何もできませんが、神様が私を使ってくださいるので、今置かれたところで看護を実践し、次の世代に繋いでいきたいと願っています。

## 長崎支部 ある患者さんの語り

「夫は多額の借金をつくり、外に女もつくった。だが、離婚せず夫の面倒は最後まで見た。牛飼いという仕事に飛び込み汗水たらして働き借金も全部返した。辛い日々が続く死ぬことを考えた。そんな時、シスターが弁当を持って来てくれた。シスターは「今日は これだけしかなかとよ」と言いながら毎日欠かさず持って来てくれた。シスターにはいつもやさしい笑顔があり、その笑顔に励まされた。今思うとそのシスターに救われた。」

この愛の業をつないでいかなければならない。

## 大分支部

7月29日、コンベンツァル聖フランシスコ修道会の大川甚吉神父様が90歳で天に召されました。

2003年JCNA大分支部の設立、2005年に14番目の支部として正式に認可されました。その時より大川神父様は初代の顧問司祭として関わって下さいました。神父様が主任司祭をなさっていた由布教会は温泉付の宿泊施設のある小さな教会でした。第1回目「広島・福岡・長崎・大分支部合同黙想会」もここからスタート、現在に至っております。当初神父様はあまり乗り気ではありませんでした。大分ではカト看の活動などほとんど知られていませんでしたので戸惑われたのではと思いました。会員は毎月第4日曜日に由布教会に集合、御ミサにあずかり例会、神父様のご指導をいただきました。例会後は高齢の神父様お一人住まいでしたので、台所をお借りして昼食を作りなごやかに会食、歓談の時を持ちました。回を重ねる毎、私達の訪問を楽しみにして下さい、熱心に8年間ご指導下さいました。

「少ない会員であっても活動は継続していくことが大切、カトリックナースの使命は御父から与えられたもの、マリア様の心で病む人と共に生きることに喜びが見出せるナースに成長することです。」と常におっしゃっていました。支部会計の監査もして下さい神父様のサインと押印が今もなお、はっきりと記録されています。その後神父様は長崎、東京へ転任。由布教会は閉鎖されました。なつかしくもさみしくなりました。どうぞ神父様、天国で安らかに眠りください。

## 鹿児島支部 隈元 郁子様 一心のバトンタッチ

私は学童保育にボランティアで行っているのですが、子ども達はコロナ感染への恐れなど、なんのそので、元気で、いきいきしていて、縄跳びなどの遊びに夢中です。

心も身体も成長しようとするエネルギーにあふれています。

「人は心を引き継ぐ存在であり、大人は子どもに善き心をバトンタッチしていく責任がある」、と聞いたことがあります。

私は子ども達から、生きるエネルギーを、元気な心を引き継いでいます。まさにこころのバトンタッチです。

コロナ禍の閉塞的な暗くなりがちなところに活気をもらっています。

私の近未来の希望は、コロナが収束したら、友人たちとところおきなく、お喋りし、一緒に食事して「おいしいね」と喜び合う、そんな日がきますことを祈りたいと思います。

## ★第66回全国総会開催のお知らせ

- ・開催日時：2021年10月30日(土) 10:00~12:00 13:30~16:00
- ・会議方法：ZOOMによるリモート会議

ZOOMのURLにつきましては、またお知らせいたします。

### ★早春黙想会のご案内

本年に続き、ZOOMによる早春黙想会を企画します。  
2022年2月11日(金) 世界病者の日(時間等詳細は後日お知らせします。)  
講師は、山口道晴神父様(広島支部顧問)です。

### ★CICIAMS ~のお知らせ

来年8月CICIAMS 全世界大会のお知らせです。アメリカ、ペンシルベニア州で行われます。  
気持ちのある方は、下記のアドレスから情報を入手しましょう。



#### **CICIAMS World Congress**

##### ***International Nursing Conference...United in Mission, United in Faith***

Every four years Catholic nurses from around the world come together for spiritual nourishment, education, professional collaboration, and enhanced global cooperation. CICIAMS is the International Association of Catholic Nurses who collaborates with the Vatican in the mission of bringing together member nurses from Africa, Asia, Europe, and the Pan American nations. One of the member nations, NACN-USA, is proud to host this event. The last World Congress held in the USA was in 1990 in New York City. All nurses (students included) front-liners, innovators, educators, researchers, and policy makers are welcome and encouraged to attend

**Date:** August 2, 3, 4, 2022

**Location:** The National Shrine of our Lady of Czestochowa, Doylestown, Pennsylvania <https://czestochowa.us>

**Host Country:** National Association of Catholic Nurses, USA

##### **Meeting and Conference Schedule:**

- Executive Board meeting on July 31, 2022
- General Council meeting on August 1, 2022
- Educational Workshops and Poster Presentations on August 2,3,4 & 5

For More Information go to: <https://nacn-usa.org/2022-world-congress/>

#### 編集後記

JCNA本部に温かなご支援をありがとうございます。  
コロナの秋も2度目を迎えます。この間の日本におけるコロナ施策は、何とも行き当たりばったりの感があります。報道で知らされる医療現場の逼迫した状況で働いている看護師の方々の様子を見てみると、その賢明な姿に苦しくなる自分がありますが、現場の方々は、チームワークの中、患者さんに向かう姿に自分の役割は何かと自問しながらも相手に向かっていく様子に、こちらも襟を正す気持ちになります。今は私は何が出来るか、今の自分は今置かれているところで、行きつくところは、“祈り”ことです。心底“祈り”に出会えて、本当に感謝です。そんな日々・・・です。皆様が深まる秋を少しでも感じる事ができますように・・・